

挑む!

チャーミングケアラボ主宰

石嶋 瑞穂さん(40)

病気の子 おしやれで笑顔に

病気や障害がある子どもだっておしやれを楽しみたい。子どもらしさを尊重した心のケアも大切だし、支える保護者にもケアは必要だ。そんな総合的なケアを「チャーミングケア」と名付け、普及のための活動に取り組む。

3年前の春、長男(9)が小児がんの一つ「急性リンパ性白血病」を発病、1年余の入院に24時間付き添った経験が活動の原点だ。次男、三男は夫と祖母が世話をした。入院生活に必要なカテーターのカバーの作製を友人に頼

むと、高級ブランドのハンカチをリメイクしてくれた。「これ、すごい?」。長男は喜んだ。夏の一時退院の時、抗がん剤で髪が抜けた姿に似合うようにと甚平を縫ってやると、気に入ってそればかり着ていた。

「『かわいい』『かっこいい』といった彩りは必要なんだ」。付き添いの病室で、子どものお見舞品をネット販売する「マミーズアワーズプロジェクト」を立ち上げた。病気や障害のある子ども向けの衣類などを扱うママ起業家との縁もでき、昨年1月、3人で「チャーミングケアラボ」を設立、講演やネットでの発信をしている。

寛解した長男は歌が得意で、元気に小学校に通う。「名前がつくことで説明がしやすくなり、見えてくる現実がある。『チャーミングケア』の認知度を高めたい」

文・写真 松尾由紀



大阪府池田市在住。広告会社勤務の後、長男の出産を機に専業主婦に。好きな時間は「子どもたちのおしゃべり。ずーっとしゃべってます」。

記者から

我が子の危機をきっかけに得た気づきを社会につなぐ。その前向きさが、たまらなく格好いい。